

西中図書館 新刊オススメ本

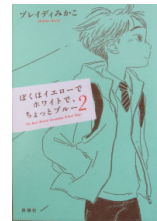


『月と日の后』
[沖方丁 著]
宝島社

「源氏物語」の作者 紫式部が女房として仕えた皇后彰子は、朝廷一の権力者 藤原道長の娘で、自分の産んだ皇子が天皇となり国母となったにもかかわらず、父

親の影に隠れて印象が薄く感じられます。本書は、そんな皇后 彰子が主人公の物語です。

わずか 12 歳で父に言われるがままに入内し、一族の権力争いに利用されるだけだった孤独で内気な少女は、いかにして陰謀渦巻く宮中で愛する者を守るため、自らの人生を取り戻すために戦い、その存在を知らしめる力を蓄えていったのか…。平安王朝を新たな視点からドラマチックに描いた長編小説です。



『ぼくはイエローでホワイトで、
ちょっとブルー2』
[ブレイディみかこ 著]
新潮社

『オートミール健康レシピ』
[植草 真奈美 監修]
扶桑社



『さよならも言えないうちに』
[川口 俊和 著]
サンマーク出版

『民王 シベリアの陰謀』
[池井戸 潤 著]
KADOKAWA



町民ギャラリー 出ヶ原和紙作り講座

町公民館では、地域文化を再生し、和紙の新たな可能性の発見を目的とした「出ヶ原和紙作り講座」を昨年度から開催しています。前月号に続き、本講座に参加した皆さんが自分で漉いた出ヶ原和紙を使って作成した作品を紹介します。

今日は、佐藤悦美さん（出ヶ原）の作品です。

作品によせて…

- ①ペン立ては、通常の和紙に皮やちりの入った和紙を貼ってアクセントにしました。
- ②写真立ては、円満寺観音堂の写真を入れ、歴史と和紙の文化を融合させてみました。
- ③写真壁飾りは、和紙の周りをちぎり、出ヶ原のぎる菊の写真と合わせてみました。
- ④照明スタンドは、クラフトテープで作った骨組みに和紙を貼りました。3色に光るLEDライトが和紙の繊維を浮かび上がらせ、幻想的な雰囲気を醸し出してくれます。

①



②



③



④



強豪チーム相手に食らいつくも敗退 第8回市町村対抗福島県ソフトボール大会



今年で8回目を迎えた市町村対抗福島県ソフトボール大会は、10月16日から相馬光陽ソフトボール場（相馬市）で開催され、出場した県内50市町村のチームが熱戦を繰り広げました。他の大会と同様にこの大会においても、新型コロナウイルス感染症対策として観戦時にはソーシャルディスタンスを保ち、大声を出さないなどの制限が設けられた中で開催されました。

今回で5回目、2年ぶりの出場となった西会津町チームは、岩原宏監督の下、各々の仕事が終わってからの夜間練習を重ね、ソフトボールの感覚を取り戻しながら試合に向けての調整を行ってきました。

西会津町チームの初戦は、当初10月17日の第2試合に二本松市チームとの対戦する予定でしたが、降雨で順延となり、10月23日にあらためて対戦することになりました。

試合は、西会津町チームの先攻で始まりましたが、相手チームの二本松市チームは過去に2回優勝するほどの強豪チームということもあり、1回表の攻撃では得点にはつながりませんでした。その裏の相手チームの攻撃では、久々の実戦ということで選手たちにも固さが見られ一挙に10点を先制されてしまい、2回以降も攻撃の手を緩めない二本松市チームに失点を重ねてしまいました。西会津町チームも反撃に出ようとバットを握る手に力を込めましたが、なかなか得点にはつながらず、0対15（3回コールド）で敗れました。

本大会は2年ぶりの出場ということでブランクもあり初戦敗退に終わりましたが、来年に向けメンバー選出や練習方法などを工夫しながらチームを強化していき、次こそ初戦突破のできるように取り組んでいきます。